

乙 頁

第1.6号 (通巻第4巻第2号)
1984年7月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ 0775 85-4397

〒524-02
守山市服部町1318番地

発掘調査だより

伊勢遺跡の発掘調査 (6次, 7次)

二町町の大鳥繊維守山工場は、現在分譲宅地として再開発されています。当地は東海道本線南側の伊勢町集落を中心に広がる伊勢遺跡の分布範囲内に位置して

おり、昭和58、59

年の2期に分けて発掘

調査を実施しました。

今年を対象地の南東辺

約1000㎡を5月3

0日～6月17日の期

間で行ない、奈良時代

の掘立柱建物などを検

出することができまし

た。右図は2回の調査

の概念図の一部ですが

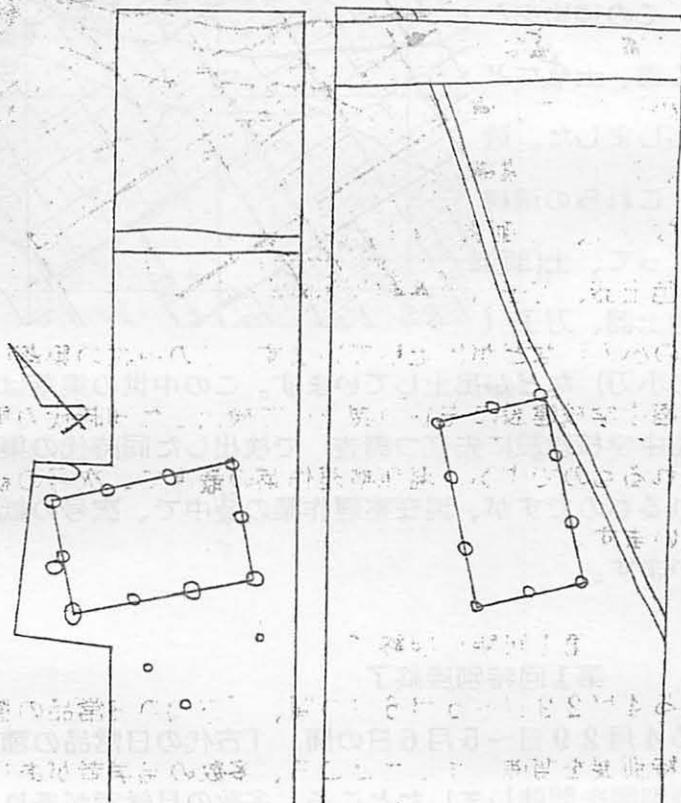
、この調査で、当地か

ら伊勢町方向に、奈良

時代の集落の広がり

を想定することができ

ます。



※ 夏季特別展開催

[9:00~16:00]

期間——昭和59年8月12日(日)～8月19日(日)毎日

テーマ——「身近な遺跡—舟山に眠るいろいろな遺跡」

講演会——8月18日(土)13:30から「舟山のつりかき」小笠原邦彦先生

大門遺跡の発掘調査

去る5月8日から25日までの期間で大門町字高 7番地に所在する約688㎡の雑地を調査し、多大な成果を挙げました。大門町東辺にあたるダイハツデイゼル守山寮の南に位置し、さらに南に水田地を挟んで南中学校が、この4月に開校されています。

さて、発掘調査の結果は、鎌倉時代初頭の集落跡と考えられ、掘立柱建物6棟の他、その建物を取りまく溝、土塚などを検出しました。遺物も、これらの遺構に伴って、土師器、黒色土器、刀子（鉄製の小刀）などが出土しています。この中世の集落は、昨年調査した古高遺跡（南中学校建設に先立つ調査）で検出した同時代の集落と関連するものと考えられるものですが、現在整理作業の最中で、次号の紙面で詳細を報告したいと思えます。



第1回特別展終了

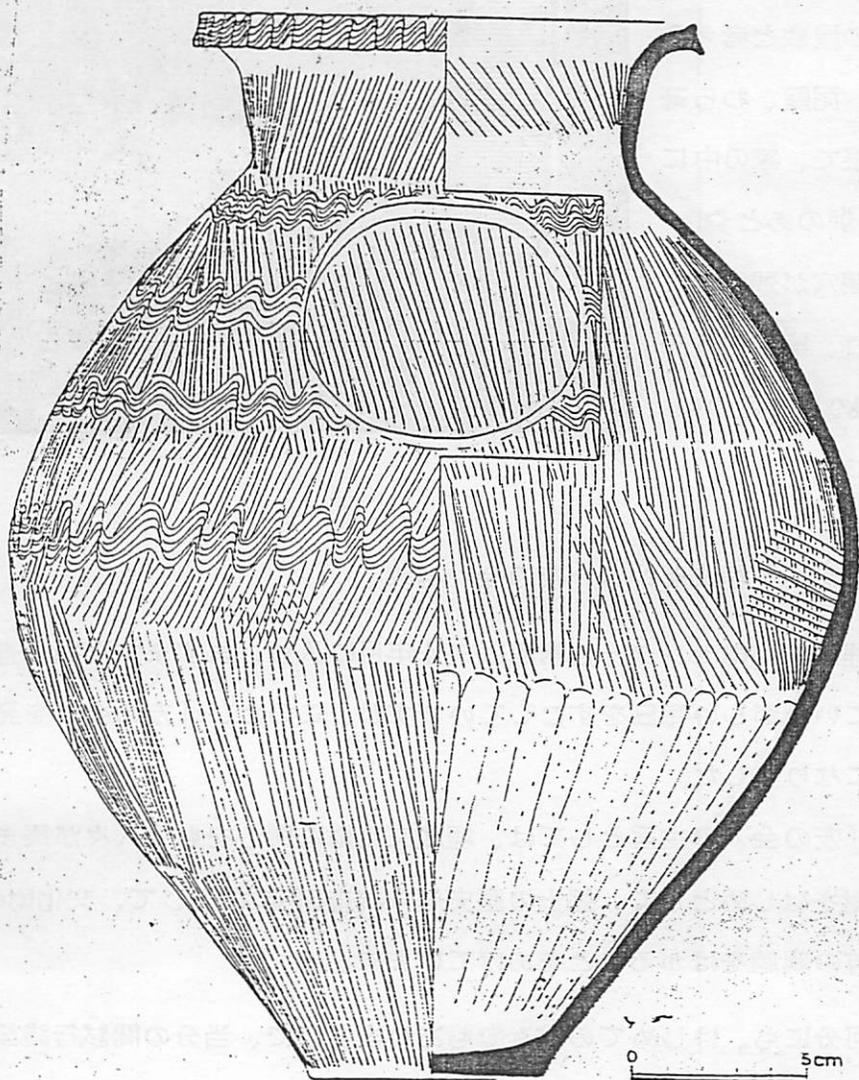
去る4月29日～5月6日の間、「古代の日常品の種類と役割」というテーマで特別展を開催しましたところ、多数の見学者があり、大変励みに感じております。日々私達が何の気なしに使用している食器類も時代を追って見ていくと、いろいろに形が変化していくさまを実見していただけた事と職員一同自負しています。次回の特別展は、「身近な遺跡」というテーマのもとで、8月12日（日）～19日（日）の予定で行ないます。一人でも多くの方に「埋蔵文

化財」の事をわかっていただける様に努力したいと思います。

吉身西遺跡の整理作業

昨年10月に調査を開始した吉身西遺跡の調査経過は、この乙貞の紙面でも数回紹介しました。今回の乙貞では、県内でもたいへんめずらしい「円窓付土器」の出土をお知らせします。

この「円窓付土器」は、名古屋周辺を中心として、畿内から関東地方にかけてのみ出土しており、地域色の濃い形をした土器です。胴部に円形の孔があげられているために円窓の名称が付けられています。県下では、服部遺跡で住居跡より出土していますが、今回のように、ほぼ



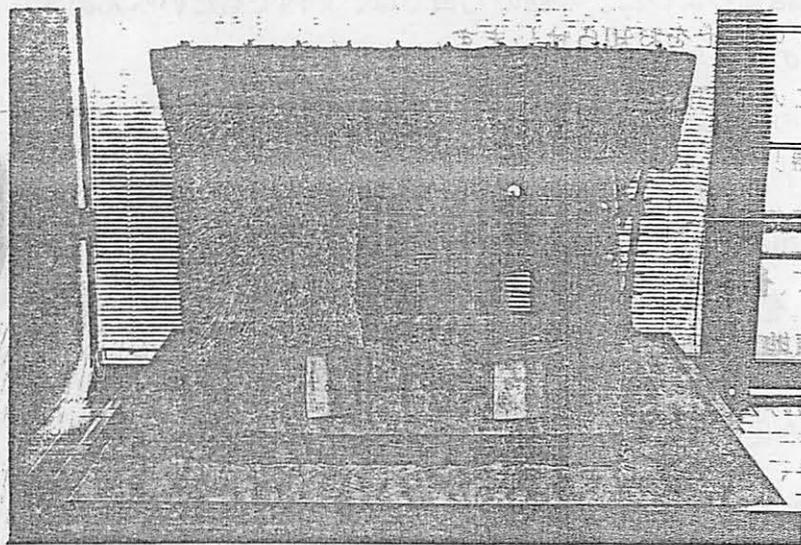
完形品での出土は初めてのことです。出土した土器は、高さ、30、3cm、口径14、2cm、円窓の幅8×6、5cmの大きさです。吉身西遺跡では、以前紹介した大和地方の台付無頸甕をはじめ、いろいろな地方の土器が出土し

ているために、今後の整理作業が楽しみです。

吉身南遺跡の復原住居

昔の人はどのような家に住んでいたのか？……現場に残る柱穴からはなかなか思いうかびませんが、この程、埋文センターに吉身南遺跡の復原住居が展示されることになりました。一辺5m程の竪穴住居の復元です。

今からおよそ1400年程前の豪族の屋敷と考えられ、泥壁、わら葺屋根で、家の中には、炉のあとや、貯蔵穴が残されており、実物の5分の1の大きさのものです。



埋文センター友の会 結成

埋蔵文化財センターも開館以来4年目に入り、ますます発掘調査、整理作業等にいそがしい毎日をすごしていますが、このたび「友の会」を発足させることになりました。

「友の会」の主旨としては、埋蔵文化財に関心をもつ人々が集まり、埋蔵文化財をはじめとして、郷土の歴史等の調査研究を通じて、文化財の愛護と会員相互の親睦をはかることをあげています。

何分にも、はじめての試みでもありますので、当分の間試行錯誤の状態が続くとは思いますが、徐々に会の充実をはかっていけたらと考えます。